

第 22 部 ソフトウェア工学の標準

海外旅行をすると、国ごとの標準規格の違いを痛感することがある。例えば、日本の国内で生活しているとそれは全く感じないけれど、海外に行くと電気のコンセントの形が日本のものと違うなどで戸惑うことがある。戸惑うだけでなく、電圧の違いなどのため私が持参した電気製品が使えない、というようなことも起きる。こういうことを通して、標準規格に従って製品を作ることの重要性、メーカーがその対応している場合のユーザとしてのありがたさなどを、改めて感じることもある。

最近の規格はこのような物理的な製品の寸法や形を決めるだけのものから一歩進んで、ISO 9001 などに代表されるように、仕事の考え方や進め方、組織の責任と権限など、もっと概念的なものにまで広がってきている。つまり製品を作る時に必ず守らなければならない規格と、考え方の基準についての規格の二種類があることになる。後者の規格は、必ず従わなければならないというものではない。ソフトウェア工学に関わる規格は、こういう性格を持っている。

第 22 部は、第 55 章だけから構成される。ソフトウェア工学に関わる個別の規格はその内容について議論するそれぞれの章で個々に取り上げているので、ここではソフトウェア工学の規格についての全般的な議論をしたい。

